

【事例Ⅰ】（概略）

オンラインと対面の併用（ハイブリッド型）による「親プロ」講座の実施等について

発表者：東広島市「親プロ」ファシリテーター 東間 真緒

<開催日程・場所>

令和2年10月31日（土）

東広島市生涯学習フェスティバルでの催事の1つとして実施。

<これまで実施していた市の「親プロ」と異なる部分>

- ・オンラインと対面の両方の参加者を募った。
- ・子育て支援部門との連携を求めて、こども未来部こども家庭課の保健師にも参加してもらった。
- ・参加者募集の際、紙のチラシと電子母子手帳アプリ「母子モ」の東広島市版『ぼけっとすくすく』を通してweb上でも周知した。（乳幼児の親世代はPCもタブレットも駆使しているので、参加申し込みの方法はHPの申込フォームやメールが多かった。）

<実際にやってみての所感>

- ・オンラインでは人との繋がりができにくいだろう、と言われる事もありますが、実際にやってみるとそんなことはありませんでした。地域内で参加しているので、「近くで会った時に声をかけるわ」等の会話もあり、初対面の人達でも対面と同様に交流できました。
- ・悩みに個別の対応ができないという意見についても、発信の仕方を変えることによって解決できます。例えば今回は保健師さんに来てもらう事で両方を繋げました。
- ・コロナで直接集まる場が無く、参加を悩んでいる人や、お子さんが病気等で出られない人達に、オンライン参加できる事はメリットがあります。
- ・対面参加では、サイコロを使ってテーマを決める事も親子ともに好評でした。フリートークの場も作った事で、オンライン参加の人達も盛り上がりました。当日の動画を見ていただいているように、子供たちが画面上の友達に声をかけたり、興味深々のように見えました。オンライン参加の子供たちも、最初こそ緊張しましたが盛り上がりました。
- ・今回の参加人数は少なかったですが、福祉部局との連携を図ることで「親プロ」の新しい可能性が広がるように感じました。

○質問：東広島の事例で、参加者は何の機器で参加されていましたか？

○回答：パソコンとタブレットがほとんどで、携帯の方はおられませんでした。乳幼児の親世代はデジタル機器を駆使しています。